

子ども会に関するアンケート結果について

1. 回答者の属性（年代・立場）

配布数は985件、回答数は95件です。アンケート回答者の約86%は30代・40代の保護者層で、子育ての現役世代の意見が中心に反映されています。

- **年代構成:** 40代が最も多く（54.7%）、次いで30代（31.6%）となっています。
- **立場:** 実際に子ども会に所属する保護者が60%を占め、運営に携わる役員経験者も23.2%含まれています。

2. 子ども会の役割（問5）と魅力（問6）

子ども会が「異年齢の子どもたちの交流の場」や「安全な体験の場」として、地域で重要な役割を果たしていることが再確認されました。

- **主な役割（上位）:**
 1. **異年齢交流の場の提供**（62票）：学校や学年を超えた、子どもたちの豊かな人間関係の創出。
 2. **安心・安全な遊び・体験の場の提供**（38票）：地域内で、子どもたちが安心して活動できる拠点の提供。
 3. **地域への愛着形成**（36票）：地域行事への参加などを通じた、郷土を大切にする心の育成。
- **魅力的な活動（上位）:**
 1. **季節ごとのイベント**（お祭り、クリスマス会など）（45票）
 2. **子どもが主体的に参加できる機会**（31票）
 3. **学習・体験活動**（24票）

3. 課題（問8）とその傾向

子ども会の持続的な運営に向けた課題として、運営面での負担感や、保護者間のスムーズな連携の難しさが挙げられています。

- **主な課題項目:**
 - 役員の仕事内容が複雑・過多**（49票）：運営の負担が特定の方に集中する傾向が見られます。
 - 保護者間の連携の難しさ**（40票）：忙しい保護者同士が協力体制を築く上での課題です。
 - 情報共有の不足**（35票）：連絡手段や活動内容の周知方法の改善が求められています。

傾向: 少子化による役員頻度の増加への懸念や、共働き世帯の増加に伴う「活動時間の確保」が、多くの保護者の共通した悩みとなっています。

4. 自由記述（問9～11）から見る「負担」と「改善案」

寄せられた具体的な声からは、現状の課題を解決し、より良い子ども会にしていくためのヒントが見て取れます。

具体的な「負担」の内容:

- **アナログな事務作業:** 現金での会費回収や、対面での会議など、時間的な制約が大きい作業への負担。
- **地区間の不公平感:** 地区の人数差により、役員を担当する頻度に偏りが出てしまうことへの懸念。
- **心理的負担:** 地域内での円滑な運営を保つための、繊細な対応への気苦労。

改善への前向きな提案:

- **デジタル化・簡素化:** 「書面やLINEで済む会議は集まらないようにする」「会費の徴収方法の見直し」など、効率化の推進。
- **指針づくり:** 地区ごとに異なる役員選出の基準や運営方法について、町全体で共通の指針を作る。
- **活動の精査:** 負担が大きいだけの活動を見直し、子どもたちが心から楽しめ、地域に根差したイベントに注力する。

保護者のみなさまへ

「町行政がどうかしてくれ」という声が多くなることは、現状の保護者の方々が抱える負担の重さを裏付けるものであり、その声は当然のことと受け止めています。

今回のアンケート結果からも、30代・40代の現役子育て世代を中心に、「役員の仕事が複雑・過多」（49票）であること、そして「保護者間の連携の難しさ」（40票）が大きな課題として浮き彫りになりました。特に自由記述からは、少子化による役員頻度の増加や、共働き世帯の活動時間確保の難しさといった、時代の変化に活動実態が追いついていない切実な声が届いています。

しかし、同時に子ども会が「異年齢の子どもたちの交流の場」として最も重要な役割（62票）を果たしており、子どもたちにとってかけがえのない体験の機会を提供していることも再確認できました。

私たちは、子ども会が本来持つべき「各家庭がスタートであり、地域で子どもを育てる」という理念を放棄するつもりは一切ありません。地域の子どもの地域で育むという主導権は、あくまで単位子ども会と保護者の方々にあります。

そのうえで、私たちは「町行政や連合会による一方的な決定」ではなく、「**単位子ども会の活動継続を可能にするための全体最適化の支援**」を役割と捉え、以下の2つの視点から活動負担の軽減と公平性の確保を推進します。

1. デジタル化・簡素化による時間的負担の解消

保護者の方々の要望が最も集中しているのは、**アナログな事務作業**（現金での会費回収、対面会議など）による時間的な制約です。

- 町子ども会連合会と連携し、会費の徴収・運用方法の見直し、そして書面やLINEで代替できる会議は集まらないようにするなど、徹底的な事務作業のデジタル化と簡素化を推進します。

2. 公平性の確保と格差是正の支援

「地区間の不公平感」は、特に少人数の地区で役員頻度が偏ってしまう深刻な問題です。

- 単位子ども会が主体性を保ちつつも、役員選出の基準や運営方法について、町全体で共通の指針となる「運営ガイドライン」を策定します。
- 連合会事業（サマーキャンプや親子スキーなど、広域でやるべき活動）については、より多くの家庭が参加できるよう機会を増やし、地域ごとの格差を補完する役割を強化します。

子ども会の存続は、負担を認め、それを軽減する努力なくしてはあり得ません。行政や連合会は、皆様の主体性を奪うのではなく、活動の「土台」を整備し、子どもたちの笑顔を守るための「効率化」と「公平性」を責任をもって支援します。この新たな協力体制のもと、子どもたちにとって真に魅力的な活動に注力できるよう、皆様との建設的な対話を進めてまいります。